

# 神戸酒徒番附選考座談会

## ■番附審査委員

石野成明〈石野証券社長〉

永田良一郎〈永田良介商店社長〉

瀧川博司〈兵庫トヨタ自動車副社長〉

松井高男〈神戸新聞出版センター常務〉

佐藤 廉〈元町画廊〉

呼び出し

小泉康夫〈本誌編集長〉

## 東／経 済 人

### 不況を寄り切り頑張る東方

#### ★三役陣は豪快無双

A 今場所から取組場所からのアンケートによる推挙も参考にしながら編成し新機軸を出すことになった、東方△経済人▽の選考から始めましょうか。

B まず、三役、横綱というとうりなりますか。

C 55才の定年制である番附だというのを再確認するべきですね。

B 正興産業の秋田博正は、年令制限で本場に引退だな。本人も寂しことだろうが仕方ないな。

A 名実ともに風格のある横綱であり、惜しまれる引退だ、3年間

ごまかしていたが、今年は歳もばれてしまって(笑)。どうも、年には勝てないというところだ。

C それでは名譽取締役になって場所を見守っていたらどう。

E ダイエーの中内功はいま、神戸ではあまり飲んでいないがどうだろうか。

C しかし、仕事面では流通の王者として貫録は十分。飲む方は走り飲みというのでは。

B 正横綱はダイエーの中内功ということですね。

E 豪快な飲みっぷり、業界も好調というところで田崎真珠の田崎俊作が張出横綱でどうだろうか。

A 酒祭りも出席しているし綱を

張ってもらいましょう。

B 兵庫信用金庫の園田正和、この人もよう頑張っているね。

C 初入幕だが、ぐんと大関ぐらいに推挙したい、面白いよ。

D 小柄ながら、フレッシュな感じがいいよ、まさに大抜擢だよ。

B 上位陣に樽本久、三輪吉郎、島文工業の島田文六。

C 森本倉庫の森本禎二。

A この辺は強い、仕事もよう儲けている。

E 仕事ということではワールドは業績をすこく上げている。

A 上島珈琲の進出もめざましい

B 飲みっ振りのいいのは沢井修一、元町家電。機嫌のええ酒や。

C 角南商事の角南猛夫とオイルスタイルの川上勉は休場にしておいた方がいいだろう。

E 島田光夫も体調を整えてもら



本誌/小泉 康夫

佐藤 康さん

松井 高男さん

瀬川 博司さん

永田良一郎さん

石野 成明さん

うためにも大事をとって休場。

★気合十分の前頭陣

C 淡路屋の寺本混はいま、飲む機会が多い立場にいるわけで、よう飲んでる。

A アンケートを見てもどこにでも名前が出てくるな(笑)

B これは三役入りしてもろうた方がいい。

A 去年は神戸の百貨店協会の会長もつとめた大丸神戸店の北尾信一、こまめにパーティにも顔を見せているので前頭筆頭を勤めてもらいましょうか。

C キリタの岩田安広も顔をよく合わせる、いい線をいっている。

D ジャヴァの細川数夫も30代ながら頑張っている。川崎重工の砂野耕一ともに前頭陣に入っている。

E 医者では、有沢武、戸山祥三、吉田早苗の三人が代表力士ではいってもらう。

A 風月堂の下村光治、川西倉庫の川西章二、小林博司といった顔ぶれ、西正興も外ぜせない。

C 小万のママ岩本起代子も休場

B コトブキの白川寛も仕事は好調、見逃せない。お酒はどうかかな

E 付き合ひでは結構飲んでいるようやなア。

A そう言えば子供服で鳴らしているキムラタン、木村豊も入幕してもらわねば、ファッション産業

として頑張ってもらいたいよ。

C 菊水総本店の菊水啓輔も頑張ってもらいたいネ。

B 今年は商工会議所の小売商業部会長でもある。十両筆頭の貫録十分というところ。

A 今年のJC理事長、神戸眼鏡院の鳥越哲は砂かむりか。

D どんな場所でもよう顔を見せているが飲まんからなア。

A 神戸マリンベアリングの三木重昭はJCでも自分の仕事でもタフにこなしている。

C 神戸船渠の玉井新吉も飲まないが、付き合ひがいい。いつもここにこして座っているよ。

★フレッシュ十両陣

A 新しい顔ぶれはないかな、仕事もやる、酒もどんどん飲むというようなのはないかな。

E アンケートには大工建設の西宮泰章も評価されているよ。

B 河野忠博、田村厚といったところはフレッシュでいいなア。

D 耳鼻科の飯田英夫も頑張っているらしいな。

C キャンティの神晴夫は現状維持ながら、人気があって取組場所として年輪をふやしている。

D 井植貞雄、松岡通夫といったところも活躍が期待されている。

B 西村商店の田中教義はぜひ入幕させたいな。

A 少し顔にシワがいったのを気にはしているようだがなア。  
E こうして見ると前頭陣とは、優ることも劣らないメンバーがそろった、フレッシュになった。

### 三役、三賞はいばらの道

A 三賞ということでは有沢武を技能賞に推選したいがどうかかなア  
C 面白いなア、なんだかびつたりしすぎる感じやでエ(笑)  
B そうなると殊勲賞は日本J.Cの副会頭をつとめた上島達司というところだろうか。

E これは、異議なし。

C 満場一致というころやなア。

E 最後の一人は敢斗賞だが、小林博司、寺本凜というところにしぼられるだろう。

A そうなると、どうしても寺本凜に一日の長がある。

商大のシルクロード踏査も余裕を見せている。

C あちこちでようボトルが置いてあるしなア(笑)

F 今年の敢斗賞にはびつたりだろうな。

D 不況の嵐の中で、敢然と商売を頑張る、しかも晴雨にかかわらず酒徒として本領を発揮するといふのは、大変なことやからね。

B 三役、三賞を獲得するのにもえらいことやな。

## 西／文化人

### 多士濟々神戸を創る西方

#### ★動かない横綱の座

D 文化関係・西方の上位陣、三役選考だがどうも横綱陣は動きそうにない。正横綱は陳舜臣。

F 「敦煌の旅」で大仏次郎賞を受賞して横綱の貫録十分。

B 内藤國雄はこの一年間、歌手として話題を集め「おゆき」は二十五万枚を売ったというから凄い

A ラジオ、TV、新聞と縦横無尽の活躍、有線放送大賞も確得。

F ことしは、また将棋九段として将棋のタイトルを取ってほしいものだが、張出横綱は動かないナ

E 中西勝も横綱の実力は十分なんやけれども、現状維持とは残念

F もう一人どう見ても横綱やというのが望月美佐、ソ連やあちこちに遠征、話題を巻きおこすまさに酒神的存在。

A 本人もどうも神戸の酒徒番附で歩が悪いのはサビス過剰のせいとか一言いっていたがなア(笑)  
B まったく実力伯仲。それに鴨居玲がいよいよパリから帰って来ることになる。

C 元永定正は具体18年や各地での個展活動など意欲的に活躍している。この実力者も見逃せない。

F 田辺聖子はますます冴えてきている。面白半分の編集など傑作だが、カモカのおつちゃんともどもにダウンしたのが惜しいね。

A 筒井康隆、市野弘之、松本宏などそれぞれにいい仕事をしているから動かない充実した三役陣だ  
E よう頑張っているのが小山乃里子、パーソナリティとしてひとつの座をしめた。

B やっぱり好きなんやろナ三役張出小結に抜擢しよう。

#### ★フレッシュな中堅陣

D 金山平三賞の受賞などで気を吐いて、いい仕事をしているのは山本文彦。東京国際版画ヴィエンナーレの大賞を確得した斎藤智も話題の人であった。

B 山本文彦は楽しいお酒で仕事の内容からしても前頭筆頭の実力は十分でしょう。

C 山口牧生、増田正和、小林陸一郎の環境造形Qのメンバーの活躍も目ざましいものがあつた。

D ポートアイランドの北公園のいるかの噴水彫刻、六甲山凌雲荘前のタワー造型、須磨の離宮公園の彫刻展への出品などパリパリ仕事をやってている。

A 神戸はどうも美術界が強いよ  
うだ。

F この酒徒番附の面白味を倍加  
させるために島京子、安水稔和  
の現役返えり咲きはどうだろう。

E 二人がはいるとすると相当上  
にはいつてきますネ。

B 取組場所でもよく見かけます  
し仕事の内容からいっても現役中  
の現役だから文句はないところ。

A 末広光夫も「ティファニー」  
を開店させて頑張っているんだか  
らこの人もカムバックさせよう。

B 音楽関係では松本幸三も豪快  
にやっている。

C 朝比奈千足も親ゆずりの酒豪  
で、いずれば三役と期待してい  
たんだが、結婚してめっきり出足が  
鈍ったようだ(笑)

F 松原新一も酒徒としてはもう  
ひと頑張りしてもらいたいところ  
だが、活躍を期待して前頭に推し  
たい。乾由明も神戸の取組場所  
に、もう少し顔を見せてほしいネ。

B これで、前頭陣も可成、フレ  
ッシュさとバラエティができた。

### ★異色新人も相次いで入幕

E 年令制限で漫画の高橋もうも  
いよいよ検査役入りですよ。

A 酒徒番附としては惜しい人だ

C ミュージカル「柴式部なんか

怖くない」をやって頑張った夏目

俊二は小倉啓子と結婚して元気に

なった。

F 「月山」の作曲と歌唱でL・

Pを出して、いま売出し中の神戸  
電通の新井満も異色の新人として  
入幕していいんじゃないかな。

B お酒も結構飲めるし面白い。

C 彫刻の新谷英子も根強い人気  
をもっているし、仕事も実によく  
こなしている。

D 野口武彦が帰国したんだけれ  
ど体の調子を整えるまで休場。

A 貝原六一も少し調子がよくな  
いらしく、検査役になって復調を  
待つか、休場かどちらかだ。

D 河口龍夫も帰ってきている  
が、まだあまり顔を見せてもいな  
いから、このところは休場。

E 華道の若手を入れるとどうか

な、佐伯一甫、福田寿夫、吉田泰  
己この三人が三羽鳥で仕事もい  
いし、佐伯一甫は前頭級の実力者で  
すからネ。

C 畑マス子や竹村まことの仕事  
も評価されている。

F 織田正吉、君本昌久、田原富  
子といった人は実力十力。

C 鄭相和、藤原向意といった人  
ファッションの中西省吾も入る。

A 具体美術の吉田稔郎も神戸を  
舞台に仕事をやるそうだよ。染の  
白石弘子も美女でいいね。

B いずれにしても神戸の酒徒は  
陽気な酒で、番附を見ただけでさ  
んざめきが聞えてくるようだ。

ちよっぴり裏面目な西方三賞

A それでは三賞の選考に入ろう  
敢斗賞に小山乃里子はどうだろう  
F 初の三役入りを遂げたところ  
だが、「結婚するバカ、しないバ  
カ」という本も書き上げ発行する  
ところなどフアイト十分。

E 敢斗賞がふさわしいナ。  
F 斎藤智がグランプリを確得し  
たのはやはり大きな殊勲だといえ  
ますよ、それに酒徒としていい。

C 国際的な舞台でも活躍してい  
るし殊勲賞は斎藤智がいいです  
ね。

D 仕事では横浜や、神戸のさん  
ちかタウンでスケールの大きい個  
展をひらき話題をあつめ、画集も  
出版したり大活躍の石阪春生。

A パーボン会にはいつているし  
仕事の上での技能賞というのは。  
B 三賞が少し真面目すぎるの  
はないかと思うがナ。

E それでは、石阪春生は砂かむ  
りを脱出して、十両筆頭まで躍進  
ことしも頑張ってもらいましょ

A 私はいつもいつているのだ  
が、この番附のつた酒徒は四月  
八日にひらかれる酒祭りには、せ  
ひ出席してもらいたいですな。

E 酒祭りも神戸あげての名物行  
事になっているんですから、日頃  
の飲みっぷりも披露してもらいた  
いものですよ。

神戸のモダンな感覚が秘められている



え・中西 勝

Silver Moon

IKUTA JINJA NISHI-TONARI SANNOMIYA KOBE  
TEL 331-8933

# 千里八周年記念

春。三月三日

四日・五日と

おかげさまで

千里は八周年!



今後ともよろしく

お引立て

ください。

# CHISATO

阪本 千里

生田・東門筋東新ビル地階

TEL (331) 4 7 3 0



# 酒によせて

カット／吉田 稔郎

## 飲み忘れ

島 京子

〈作家〉



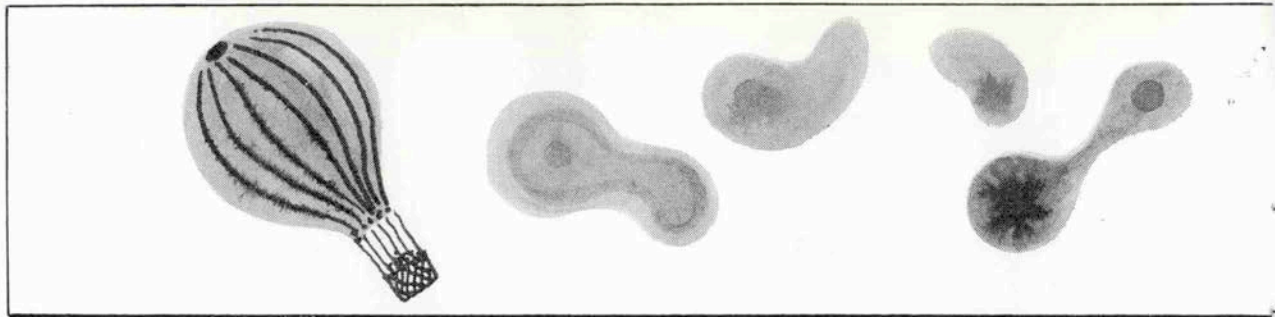
昨年「神戸っ子」恒例の酒徒番付というやつで、当方は検査役（知らなんだなア）であったのが、こしはまた前頭になった。

番付といえは、私の所属している同人誌「V I K I N G」でも毎年執筆者番付というものを作成しており、こんど私はそこでも前頭の何枚目かであったが、この前頭は、例会記という毎号掲載するものの執筆によってであり、作品を出したわけではなかったため、何だかごま化して得た地位のようであるが、それでも前年度の「ヤ」じるしよりもまし、と思っている。考えてみると、酒類の方は、実は毎日何かを飲んでる。いままでも、よく家では飲むか否か、聞かれて、あんまり飲まない、と返答をしていたのが間違いであった。夜おそく、南町の家を出て、北町の小さな文化住宅の一室に寝にゆくことが、ここ一年半余の決まりになっていたのだが、急ぎ足で

わずかずつではあるが登り坂にあって道を二〇分足らず歩くと、夏は夏で、いまごろのような空気の乾く冬は冬で、たいへんのが乾く。北町の家の手前の自動販売機で、ビールを小銭にあわせて買えるだけ買う。のどが乾いているときのビールの味はいうまでもないことだ。ビールを飲んでから、パーボンを水で薄めて飲んだりする。（結構飲んどるやないか）とわれながら感じ入ったのも、これを書きながらのことではある。

このお正月は、大先輩の家を二軒訪問し、一軒の家では飲みかっ歌い、踊り、一軒の家ではしたたか飲みかっ笑い、笑いは酔いをいっそう誘うのか知らんまに家に帰り、知らんまに寝て起きていた。

外で飲むときはたいいてい三三街（旧柳筋）の気楽な「しゃねる」か、ビルの裏のお稲荷さんの前の「セブン」か、たまに「えこーる」にゆく。これからの店も、考えてみれば、顔を出しはじめてから十年そこそこのことで「しゃねる」には最初馬部貴司さんに連れられて行ってもらい「セブン」「えこーる」は中平邦彦さんに案内してもらってからのことである。それまで、外で飲むということは「V I K I N G」の例会ならびに二次会で、居酒屋の二階にぎゅう詰めにされながら、食べたり喋ったり



のついでに飲むしかなかったと思  
う。

ここまで書いて来て思い出し  
た。三宮で飲む前は、そうだ、大  
阪で飲んでたんやった。何で酒  
を飲んだということは忘れるので  
あろう。この前津高和一郎のパ  
ーティで、久しぶりに読売新聞の鈴  
木敬さんに会い「いまでも毎晩飲  
んでるの」と聞けば、そうはいか  
ん、という話で、実はこの鈴木敬  
さんに案内され、北や南とずいぶ  
んよく飲み歩いたものであった。

## 酒と夢

### 寺本 混

〈淡路屋関専務〉



ヤング・アダルトというのは、  
比較的若い成人のことをいうのか  
と想っていたら、年令には関係な  
く、「若さ」と「大人」、「おちつ  
き」と「未熟さ」といった矛盾す  
る両要素を同時に内臓する人たち  
のことだそうである。

そして、それは、青年でありな  
がら（ここでは四十才までを指し

たいのデス!!）大人なみの知識や  
おちつきを備えた「ヤング・アダ  
ルト」と、大人（したがって、こ  
こでは四十一才以上となります）  
でありながら、若人なみの冒険心  
や、新しさへの好奇心を失ってい  
ない「ヤング・アダルト」にわか  
れるのだという。

いずれも、かねて、そうあり  
たいと願っていた線であるが、J  
C定年四十才を目前にひかえ、い  
よいよ後者を目標にする転換期に  
さしかかった自分を実感してい  
る。

今までは、ヒマラヤを歩いたり、  
シルク・ロードを走ったり、ある  
いは、赤道の海底に熱帯魚とたわ  
むれるスキューバ・ダイビングな  
どを楽しみ、年令的、生理的欲求  
にもとづく、当然の素人冒険旅行  
であったのだが、今後も同じよう  
な意欲をもちつづけられるだろう  
か。

山岳界の大先輩である宮崎市長  
や長島市民局長が、ハードな公務  
のあい間をぬって、今なおすばら  
しい山行を続けておられる姿をみ  
て、これが、本当の「ヤング・ア  
ダルト」だと、その称号(?)を  
送りたいと思う。

ごく最近、親しい仲間が、パー  
ナーの熱によってふんわりと浮く  
熱気球でヒマラヤの麓をとんでみ  
ようというプランをもちこんでき



た。これを聞いた私の周囲の者は、危いからと必死で止めるか馬鹿扱いのいづれかである。

しかし、静かな夜、ひとり、グラスを傾けながら考えていると、結構、楽しい計画である。アルコールが若い血を熱くしてくるにしがたい、まるで風船のように夢がふくらんでくる。

これは「ヤング・アダルト」なのか、「オールド・チャイルド」なのか、あるいは、酒の効用というべきか、さっぱり判らなくなる昨今である。

## 酒の奇蹟

春木 一夫

〈作家〉



これまでに、いろいろの酒を飲んできた。従って、酒に関する思い出はつきないが、そのうちでも特に印象の強いものを記しておく。

マツカリは朝鮮のどぶくろだが軍隊にいるころこれを愛用した。

私は陸軍歩兵だから歩くのが仕事である。寒中の行軍は、時間がた

つにつれほかほかしてくるが、炎天下では汗も干上って、のどがカラカラになってくる。一日に平均

四十キ、ひどい時には六十キほど行軍させられるから、水筒の水は

からっぽ。こうした時には、村の酒家（サカヤ）に飛び込む。スリチビでは、

地面の下に壺をいけ込んでいるから、井戸水と同じように冷たい。

これをバカチに汲んで貰う。バカチ（バカチ）というのは、水瓜のように丸い朝鮮瓜をまっぶたつに切って乾燥

させたもので、桶や椀の代用に使っているものだ。

冷たいマツカリを一気に六、七合ほど飲みほすと、からだがしゃんとしてくる。だが、そのあとが大変。外からは四〇度近い炎熱にあぶられるし、腹の中は煮えるよ

うにわきたつ。それでもしばらく歩いてみると、すっかり汗に出てしまうから、身心とみに爽やかとなる寸法。

次に蒙古の酒。

これには三種類ある。馬（ウマ）仍酒（ウマノシウ）と牛（ウシ）仍酒（ウシノシウ）、それに黒酒だ。

マ（ウマ）ーナイ酒（ウマノシウ）というのは馬乳酒のこと、ク（ウシ）ーミーズ（ウシノシウ）といわれているもの。内蒙では神事に多く用い

られるだけで、めったに飲む機会はない。ニューナイ酒（ウシノシウ）は牛乳酒のことであるが、山羊乳でつくった

ものも、同じように呼んでいる。製法が面白い。蒙古包（ゴウゴウ）の軒先に皮袋をつるしておく。ときどきかきまぜてやる。二、三日たつと醗

酵し、マツカリによく似た白濁酒となる。乾燥地帯であり、雑菌の殆んどない地帯だから、簡単に酒となるのである。

ニューナイ酒を二重底の鍋に入れてたくと、水蒸気が下の鍋にたまる。これが黒酒といわれる透明な酒だ。ブドウ酒を蒸溜すれば、

ブランディとなるのと同じだと思えばよい。透明な酒をなぜ黒酒というのかといえどこの酒は強い。

ニューナイ酒と違って味がないので、水代りに飲むと、アルコール度が強いので、サイダー瓶一本ぐらいでひっくりかえる。見かけによらず強い。つまり腹黒いから、その名があるのだろう。

この酒を飲んで、張家口の町の光る道を歩いていた。視線を斜め右に向けると、橋の上で、人々がこちらを指さして、何かわめいて

いる。耳をすますと、「沈むぞ。沈むぞ」といつているのだ。はっと気づいた。途端にずぶずぶと、清河のまん中に沈んでしまった。

酔っばらっていたので、月の光で道と間違えて、川の上を歩いていたのである。

'77

# 酒祭り

4月8日(金)

サンボーホール2F

受付 午後5時30分 開演 午後6時

会費 四千元 (お申込みは月刊神戸っ子まで)

△プログラム▽

● 第6回ブルーメール賞授賞式

音楽部門 / 文学部門

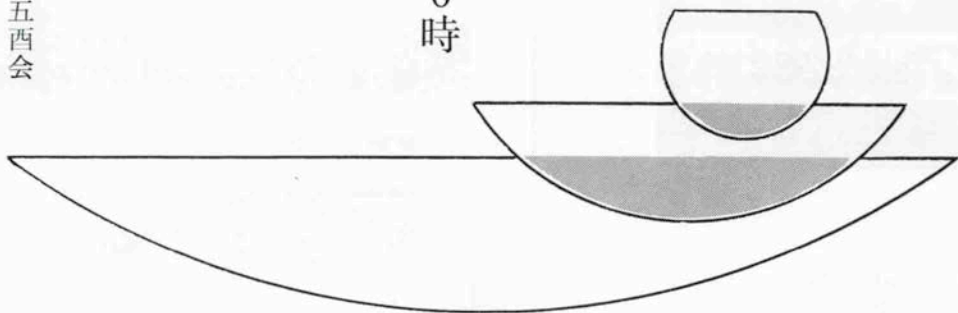
美術部門 / 古典芸能部門

● 昭和52年度神戸酒徒番附表彰式

● ゲストによる歌謡ショー

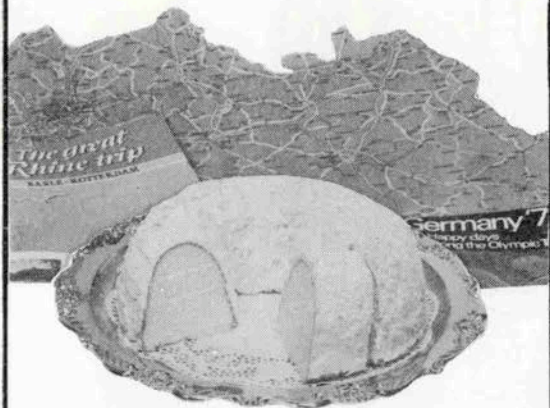
● 神戸の酒亭紹介 ほか

主催 / 月刊神戸っ子 後援 / 神戸百店会・灘五酉会



フランクフルトの  
白い冠

上品なバターケーキです。



フランクフルタークラッツ

ドイツ菓子

Faehlein's

ユ-ハイム

このマークの店でお買求め下さい

本店 神戸市生田区下山手通2-31 TEL (078)331-1694  
三宮店 神戸市生田区三宮町3-15 TEL (078)331-2101  
さんちか店 神戸市生田区三宮町1-1 TEL (078)391-3539



洗練された自由な女性

顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

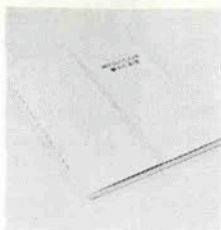
服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123

## 経済ポケット ジャーナル



★大丸神戸店が50年史出版  
昨年十二月、株大丸神戸店（北尾信一店長）から同店五十周年を記念して五十年史「神戸店の50年・その表情」が上梓された。



「神戸店の50年」

全体は展望／神戸、前期（文政2―昭和2）、一期（昭11―昭31）二期（昭31―昭40）三期（昭40―昭46）五期（昭46―昭48）六期（昭48―）などに分けられ、それぞれに豊富な写真と当時の主要な出来事、その紹介、そして大丸社員による「思い出」、各界からの随想などが満載。通して読むと昭和五十年が興味深く生々と描かれている。

執筆者には小野雄作、石

原秀夫、中山岩太（写真）、川西英、林田重五郎、河原巖、小原豊雲、井狩彌治郎、柴田進二、渡辺倉三氏ら。九十八頁建て。

### ★輸入食料品専門店

「サンライフコウベ」

昨年十月にオープンした輸入食料品専門のスーパー「サンライフコウベ」が好評を博している。



明るい「サンライフコウベ」店内

同店は食品の輸入専門商社「永昌貿易」（陳成宗社長）の直営で、トアロード東側の同社ビルの地下一階から地上二階までの三フロアー、約五百平方米の売り場をもつ。

「品目が多く、鮮度がよく、値段が安い」をモットーに輸入食料品が豊富に品揃えされ、百種類を越えるスパイス（香辛料）をはじめ、地下一階にはハム・ソーセージ、乳製品、野菜、自然食品、二階には菓子類、パン、ジャム、蜂蜜、かん

詰めなどの保存食品、二階にはスパイス、精肉、冷凍食品など三千数百種、数万点の八世界の味が揃っている。店内は明るく清潔で、外人客も多く、楽しくショッピングの出来るいかにも神戸らしい店だ。

「今後も顧客のニーズに応じて品目を充実して行きたいし、将来は阪神間、東京にも店を出したい」と陳社長は意欲を見せている。永昌貿易株式会社 サンライフ事業部 神戸市生田区中山手通二丁目一三三 永昌ビル五階 ☎三三二一―三二二

### ★ KOBE オフィスレディ ★



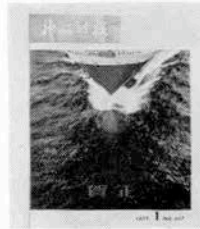
内田 洋子さん（23歳）

キリンシーグラム神戸営業所

お酒は少々一酒特集だからと飲むことばかり聞いてみたが、これが返事。むしろ雰囲気を楽しむタイプ。どちらかというと洋酒党ですねとこれは当然（ノ）の答え。昭49・3の入社。ズッと一般事務（伝票関係）。小さい頃から好きな手芸や編物を今も続けている。女らしい可愛い感じのお店を持ちたいのが夢とか。だが、その前に一つ大切なことがありますよね。（武庫川女子短大卒業）

★「船舶時報」が読みやす  
い雑誌型に

三菱重工業株式会社神戸造船所（本社兵庫区）が毎月出ししている広報誌「船舶時報」が今年から従来の新開型から雑誌型に変わった。



「船舶時報」新年号

同誌は昭和二十四年九月一日の創刊だが、これについて編集委員長の相賀謹弥さんは、

「今回雑誌型にイメージチェンジを図るのを機会に社員に親しまれ、読みやすく楽しい内容のものに充実を図っていきたい」とその抱負を語っている。

新年号は三十二頁建て。



# ファッション街区への胎動

北野界隈の新しい動きを探る

嶋田 勝次 △神戸大学工学部助教授

安藤 忠雄 △建築家・安藤建設研究所

岡添 貞撫 △サロンドパール北野・岡添真珠社長

菊地 吉弘 △駒ペアーズ社長

三浦 明定 △キングスコートオーナー

若山 晴洋 △ローズガーデン社長

大和田隆夫 △ヨーロッパ美術工芸・三番館オーナー

★生活をする場所としての北野

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、「神戸らしさ」の文化の発掘であった。文化を即生活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこそ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに彩り、楽しくしていくことは、まさに「文化開発」のものではなからうか。

「ファッション都市・神戸」はそのような環境のなかで息づいている。

そこで、ファッション都市・神戸の本質的な理解——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

今回は、最近、北野町界わいを中心に動き出し、注目を集めている新しいファッション街区づくりについて、その現状と問題点、ファッション都市への胎動と展望などについて語る内容である。

嶋田 私は終戦直後、北野町の異人館に住んでいたことがあり、そこから、中、高校に通っておりました。それが昭和二十年代なんです、三十年代になると、ホテルブームということで北野町が非常に変わってきた。それが四十年代になるとマンションブームで、これが五十年代になるとファッションとかブティックの時代になってきたのではないかと感じがします。ただその中で都心に近いということで、いろんな要素が入り混りながら、非常に変貌を遂げてきている。それに異人館が見直されて来ているということと、逆に異人館をつぶそうということと両方出て来て、その間にファッションというものが入りこんで来た。

私は都市計画をやっていますが、北野は非常に難しい地域に当たるんじゃないかという気がします。ひとつ

の生活環境なり高級な住宅地なりをどうやって都心の町にするかという、これは大きな課題だと思っっているのです。その中でファッションというのがひとつの大きな役割を果せるのかどうか、はっきりとは判らないのですが、ファッション都市の大きな核になるのではないかと、いう感じはしています。

安藤 ファッション都市神戸の中で、たとえば山本通りをどういうふうな考え、ポートアイランドをどういうふうな考えるかということですけど、やはりファッションと生活というのはどういうふうに関連づけられていくかということが非常に重要ですね。神戸はいわゆる生産による経済都市でなく、われわれは大阪で仕事が出来ても、神戸では仕事が出来ない、どうも神戸は生活する場所であっても、仕事をする場所ではないと、ものを考えるところでも、仕事をする場所ではないというように常に考えています。

そういう観点からすると、神戸はファッション都市には仲々向いた町だということに感じていますね。その中で北野町というのは、ファッション都市というより、昔からのイメージからすると、あそこは生活する場所だろうが、生活する場所でのファッションというとき直接的な商いのために場所を設定するのは非常に問題がありますね。ファッション都市といっても、別に店舗ばかりが出来るとは、いい生活があつてその中でファッシ



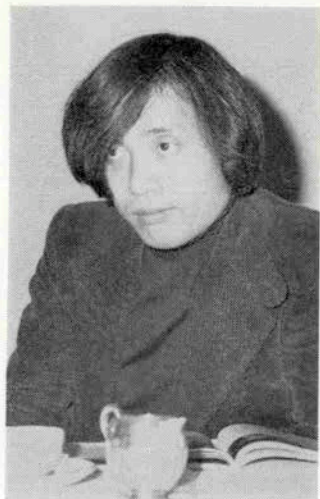
嶋田勝次さん

ョンを考えてゆくならば、ファッションもいいでしょうけど、あの周辺が一大商店街になるのではないかと、いう危惧をしているわけです。

その中で建築家は非常に受身の状態で仕事をしますので、どうしても経済優先の傾向を受けていかざるを得ないという弱味があつてやっていますが、どうも店舗ばかりが出来て町はどういうふうになるんだらうという危惧ばかりをしています。北野あたりでひとつ商いをしてやろうという人間ばかりがいて、生活をしてやろうという人間がいまいというところに大へんな問題があるだろうと思います。

若山 安藤さんがおっしゃったように、北野町を商売だけの場所にしてしまうのは困るんだということ、当然私たちもはじめからそう思っていました。私達は喧噪な商業施設を何も北野町へもつてきて、北野町のさり気なさをぶつつぶそうというそんな考えはまったくないし、むしろ逆にさり気なさを売り物にした商業施設をつくり、そしてまた豊かなビュティフルな人々が集つてくるような場所にした。それは何も商業施設だけでなく、ものをつくる人、アーティストも含めてそういうような人々に集つて来て貰いたいと思う。今はそういうふうな「ローズガーデン」が出来上つていると確信しています。

岡添 たまたま私のところの男子寮が、「キングスコート」の前にあり、建て換えようと思つてこわしたんですが、いろいろ考えてみまして、あそこにひとつ私なりに真珠のファミリー的な雰囲気を出した何か、今風の異人館のようなものをつくつてみよう。それで楽しい散策のうちにはショッピング意欲を燃やしていただいて、買っていただければまた楽しいのではないかと、いうことから、ああいう小さいスペースですが出来上りました。異人館のある北野町の雰囲気につながっていくようなイメージで、あの一画を山としたり、森的な雰囲気にするために協力願えるなら、非常に山手は良くなると思うので、今



安藤忠雄さん

さかんにアプローチしているところです。ひとつのそういう小さい夢ではありますが、私なりに神戸の山手を守るという意味で、現在やっています。

### ★北野にはスケールの大きいものは似合わない

三浦 「キングスコート」はオープン以来、珍らしさも手伝ってか、割合調子は良かったと思います。ところが、商行為を通してその中の係数上の問題を考えますときに、皆さんがお持ちになっているようなすばらしい予測がさほど出てこないであろうと思います。

嶋田先生がご指摘のようにホテル街が出来て来て、その次にマンション、非常にスケールの大きいマンションが次から次へと出て来たわけです。それで「キングスコート」の三浦が何か可愛いものをやりよつたと、そこで



岡添貞撫さん

ダーとつづけてスケールの大きいものが出来る可能性があります。デベロップ側は決してその住民の住んでいる地区をスポイルするためにやろうとは誰も思っていない。出来るかぎり、皆さんと融和できるような融合点を見つけたそうとはしているんです。スケールが大きくなって来ますと、どうしても客観的に第三者が見たときに、あの静かな町がどういうふうに変貌してゆくんだというひとつの恐怖感みたいなものにつながってゆく可能性はある。スケールはほどほどにしておかないといけない。

あの界限がどうして若者にとって魅力のあるところなのか、これは神戸のもっていた神戸らしさの残つた地域、唯一の遺産であろうと思う。その遺産が朽ち果ててゆくを見るよりも、もつと若者らしい発想で第二の遺産をつくっていったらどうだろうという発想があつて、それにビューティフルなものというところがひとつ入る。住んでいる方も別に商人だけでなく、デザイナーとかありとあらゆる人たちがその中に美しく生きてゆけるようだったらいいでですね。私は私なりに神戸の北野町にホテルやマンションが建つよりももう少し可愛い店が点在してもそんなに悪くないじゃないかということでスタートしました。ここ数カ月、大きな企業が出てくるとか来ないとかいう話があつて、結局、立ち消えになりましたが、その理由を私なりに模索したり聞きにまわりますと、あそこでははじめいいましたように、係数上に面白い数字がそんなに出てこない。まだまだその辺でつづねる余地はありそうに思います。若い良い建築家が神戸に第二の遺産をつくるべくやって貰って、そういう建物が点在してゆくことによって、今、多少批判の声をいただいているこの辺にお応えしてゆくというような形をとっていったらと思っています。

大和田 私はテナント側の方でしてね。あそこの地域の中で営業をやって、それがペイ出来ないとか駄目だということなんです。それが先ず第一条件になるんですが実際は難しい。では何故北野町に出て来たかというところ、昔屋



大和田隆夫さん

で七年程商売をやりましたが、その七年間の間に、やはり神戸で生まれて育ったのでどうしてもトア・ロードに帰りたいという気持がズツとあったわけです。どうして

帰りたいかというと、神戸らしさというか、良いものがたくさんあり、先輩諸氏がつくって来たものが一ぱいある。それが東京、大阪、京都にも受けるし、元町、トア・ロード、三宮界隈の百年の歴史が積み重ねられていく。具体的にいえば神戸のセンスが良いものをつくり出し、ヨーロッパ商品が入って来ても神戸の地理的条件で理解された上で、日本人として良いものを生活の中に身につけてゆくという積み重ねが神戸にはあると思う。その神戸の良さというのは、基本的にはハンドメイドキングのものですね。だんだんと徒弟制度が崩壊されて来ているんですが、職人が一点一点つくっていく良いもの、材料は



三浦明定さん

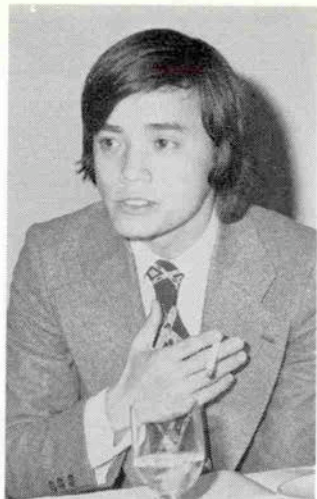
良く吟味した、自分の肌によく合うもの、そういう材料で徒弟制度に打ち勝って来た技術で勝負している。これが神戸だと思う。その商品が京都、東京、大阪、名古屋にない。そういう商品をお客様が求めて来たと思っております。

新しい町づくりということで、元町、トア・ロードをひっくり返した上での延長が北野町だと思っんです。先輩諸氏がつくって来た良いものに負けないものをつくらなければいけない。それがポイントだと思っ。町全体と商品構成。商品も本物でないといけない。最近目は先きに走ってゆきやすいが、それでは商売もつづいてゆかないし、町にも良いものが出来てこないと思っますね。

菊地 先づひとつは朽腐してゆく異人館ですね。いづれ朽ち果てるものですので、それに取って替わるすばらしい建物をつくってゆくということ。それと現在三宮中心街の商業空間にもウンザリしていると。三宮界隈はこれからもどんどん開発されて伸びてゆきますが、小売経営者から見ても、神戸市民から見ても居心地が悪いんですね。お互いに思っていることは一緒だと思っます。というのはジツクリと落着いた買物を神戸市民は望んでいますし、一方、小売経営者も、将来性があるかといえませんが、これも疑問なんです。折角質の良い商品を並べても、それがついつい見過されてしまっ。非常に高い収益性を要求されますし、フレンドリーなお客様との触れ合いもありませんので、お客様の考えていることや動きが判らないということがあるでしょうし、だから先取りがしてゆけないという問題点を抱えているわけです。そういうことを解決してゆくために、新しい商店立地というのですか、「ローズガーデン」、「キングスコート」などの北野町界隈、人間の手の届くような界隈が必要ではないかと思っます。

和洋習合というのですか、お互いに良いものをミックスしてさらに良いものをつくってゆくという、戦後われわれはそれが逆になって洋和習合になったのですが、い





若山晴洋さん

づれにしてもそういう昔からあった良いものを融和して新しく更に良いものをつくってゆくという風潮が神戸にはあると思うのです。もう一度これを見直して、神戸の頑固さを、ここで百年目なのだからひとつキャンペーンで打ち出して、北野町界限で新しいものをつくっていく職住隣接の新しい商店基地をつくりたい。そういう気持が私にはあります。

★北野では経済計数を考えた商売は失敗する

嶋田 北野町における地形には、大きなマンションとかホテルなどは先づ合わないということを私自身はかねがね思っていました。それをズバリといわれて、また、「キングスコート」を建てられたということも感心しました。



菊池吉弘さん

ただ、あそこで商売して儲かるのかという感じがするわけなんですけどね。

三浦 係数上の貧しさというのはなきにしもあらずですよと申し上げたわけで、これは決して大きなものが何処かへ出てくるのを食い止めるためにいつているわけではなく、神戸らしい消費者のニーズに応えられるテナントが入ってくれば良いのですが、商行為とわれわれデベロッパー側の考えと一致しないところがあるわけですね。たとえば商品回転効率のよいものに走ってしまったり、そういうリアクションがあったりして、そのへんでなかなかやりにくいという実感があります。

嶋田 商売とファッションをつくらうということがピタツと一緒にならないといけないですね。その中で観光という要素も入って来ますね。そうすると逆に神戸の悪いものが落ちて行かず良いものも残らないという感じがするのでそのへんが気になりますね。

三浦 西欧諸国に行つて絶えずビックリしますが、何年後に行つても、セールス街も同じなら、店の位置もまったく一緒。多少ペンキを新しく塗り替えたぐらいで、それもカラーは変えていない。この辺に非常にユックリしたイズムがあつて、それが北野町にぜひ必要だと思いたすね。

嶋田 それは、オーナーの責任もありますが建築屋の自覚が足らなかつたことも大いにある。北野町をもう一回つくり直すという運動のなかに、守るだけでなくて良いものをつくれれば町は残るのだという思想がポツポツ定着して来たのではないかという気がします。そこにオーナーの偉さみたいなものを感じます。

菊池 新しいもの、良いものを残してゆく責任はわれわれにあるわけです。息の長さが必要だ。華やかなものをパツとそこに建てただけでは、何も残らない。建てる前に気を使って環境に融合した、マッチしたものをつくるという基本方針をもってやる。それを住民サイドで、素直に受止めてくれる人と、そうでない人とがいます……。

若山 私は小売店をもった場合に、回転率だけ追うような小売をしたくない。もつと他の価値観をもつてやりたい。若い人の中にそんな傾向が出て来ていますが、そんな人こそ住みやすい世界をつくるのじゃないかと思えます。そういう人達の夢を大切にすることが本当に世の中の役に立つのではないか。売上高だけを基準にして小売店を出すのならば、当然北野町ではやりにくいですね。売上だけを伸ばすということとは違う価値観を大切にしたい。

一年間いろいろな人に逢って見ましたが、はっきり二手に分れると思うのです。小売をするからには確実に売上げを追求しないと意味がないという人と、もつと自分なりの方法をもって、経済人ではあるけれども他のものもねらっていくという人です。私は後者の人を大切にしたいですね。

岡添 みなさん若い方々の話をきいて嬉しく思います。経済計数を考えて北野で商売すると失敗するのじゃないですか。夢を追って小さく変ったものを建てたら、おそらく観光客でもそれを見に来たり、異人館を見たりする。観光と経済が密着するには時間がかかるでしょうが、北野の町づくりという基本理念がないとおそらく人はたくさん来るけど商売にならないということになると思う。それが密着してくるまで時間がかかる。そこに相当犠牲をはらった私達の心の中の基本理念がある。そういう意味から私は、散策に来てくれる方々に、ブラジルあたりの生のコーヒを飲んでいただきながらのんびり店を見て貰うという、そんなのんびりした雰囲気町に欲しいと思います。そのうちに道の両脇にヨーロッパ式にガーデンが出て、日向ボツコシながら談笑しているというそんな店があっても良いと思いますね。スイスあたりでは、町づくり全体が寄与しているというようですが、それを北野町にもつて来て貰いたいと切実に感じています。安藤 北野町界限では、たしかに大きなスケールのもものが、あの傾斜には合わない。小さいスケールで少しづつ

頑張つてゆくと相当良い町になるだろうと思う。それを一息に大きなスーパブロックでドサツとやってしまうと、町にはならない地形だと思う。良い町に残そうとするならば、屋根の色を規制するとか、レンガの壁を使うとか色々方法はあるが、地形をどういうふうになかすかということを設定するだけで充分だと思う。道路を地形にフィットさせると大きく開発出来ないわけです。

もともとの建物というのは地形を考慮した建物ですから、地形を大事にしたら町の雰囲気は、それだけでかなり安定してゆくのではないですか。

もうひとつ、これは、われわれ建築家の問題なのですが、建築家は受身の状態が多いので、建築家と同時にオーナーも非常にしっかりした意見をもって貰わないといけない。今まで乱開発があったのは、建築家側の大へんなミスもありますが、同時に依頼者側にも大へんな能力のなさがあったのではないかと思います。北野町で開発をしようとしている方々は、町をよくしてゆこうとしていることでは一致しているわけですね。建築家がスケールの問題とか、地形の問題とか、町にどのようにフィットしてゆくかということをジックリおさえてゆくと、そう大きく崩れないのではないですか。

#### ★生活環境を闘いとするアピールを

三浦 「ローズガーデン」のところを横断歩道が出来ましたね。あれは住民の声ですよ。このリアクションに対しては、非常に敏感に神戸市は応えてくれますね。市の環境課あたりは強力で考えてくれてる。住民との融合点を見つけていこうと市は真剣に考えてくれてる。したがってデベロッパー側ももう一回確認し合つて良くしてゆこうと絶えずやっています。

嶋田 「キングスコート」の前の道と上の北野天神のあの二つの東西の道を、交通規制をして、樹を植えたりする。先づそれをやればひとつの骨組みが出来るのじゃないですか。

安藤 そこで生活する人と、町をつくっていいこうとする人、その人達がどれだけ良いものを知って、つくっていいこうとするかという努力が良い町をつくってゆくだろう。それを役所に提案するなりするわけですから、どれだけ食欲に良いものを獲得してゆくかという努力が生活している人たちに重要なんだろうと思う。今の人は、生活とか建築とかについてあまり食欲ではないですね。与えられたまま仕方がないからという感じですね。ヨーロッパの町などは、花ひとつにしてもどうしてもそこに要るのだという感じがあって、生活を美しくしたり楽しくすることについて食欲に斗い取ろうとする感じがある。生活環境を斗い取るのだというアビールが必要だ。今まで神戸はたまたま経済の風に当らないで良い環境であったから、そういう努力を非常に怠っているのではないかと。

若山 地元の一住民として、またデベロッパーとしても、車を少くしてほしい。異人館通りは車をシャットアウトしてほしい。とにかく住みやすい町をつくりたいですね。岡添 今こういうふうに出てくる神戸の町は、過去にわれわれの想念の世界に描いた青写真が結果として出て来ている。若い人の今の発想点が大事だと思います。これが将来大きな形になって現われる。今私達も持っている北野町の哀愁と愛着を何かの青写真としてしっかり持っておれば、結果的には得難いものが出てくるだろう。私は、調和ある斗争という言葉が好きだけど、住民との調和の町づくりという形で、若い方々と大いにディスカッションしていきたい。そして衆智を集めたもので、やってみようですね。

三浦 高級な住宅地にして、下町にして、住んでいる人達からファッションに關した店が出来るということで多少抵抗と批判を浴びているが、結局カッコ良い商品を扱っているにすぎない。この町を悪くしようとは思わない。しかも私も住民のひとりですよといいたいわけです。住んで日常生活がないと町などは理解出来ないですよ。それとユックリズムと、小さいことは良いことだとい

うことを絶えず提唱しながら、自然環境の中に日常生活をマツチできるようなことをやってゆきたいですね。

大和田 ただひとつ心配なのは、経営上の問題でペイ出来ないテナントは要らないのだという考えですね。しかし現実にはどうしても入りたくて、あの地域で出発したいというテナントも混んできてくると思います。経営の出来なくなつたテナントが落ちてゆくと、一つの建物の中に何軒か入り、あれだけ狭い通りに乱立してゆくわけですから、ひとりでも落伍者が出てくると商品構成がドンドン落ち込んでくる。はじめは良いものを置いたが、半年、一年経つとだんだん商品がダウンして来たということになり、極端に悪い方をすれば、家賃が払えないケースもなきにしもあらずというときに、テナントとの距離感が親密であつて、共存共栄で全体に落伍者のないようにやってゆきたいですね。

菊地 コンセプトづくりをやり、それを建前として出来るだけ妥協しないように押し進めたい。それで日本全国にないようなひとつの新しい商店立地を建設してゆきたいですね。ここで打ち出す頑固さを永久的に続けてゆくためにね。神戸をもう一度見直して、神戸の頑固さ、良いものを、量よりも質を売るんだという、手づくりの味だとか、何か価値のあるものを出来るだけ売ってゆきたいのだという、そういう界限にしたい。もう一度神戸を整理統合して北野町界隈を考えたいですね。

嶋田 北野町には意外性がありますね。その意外性を出してゆきたいですね。北野町はまた歴史的な積み重ねが大事だといわれましたが、異人館だけを大事にするのではなく、今からつくるもの大事にしたい。悪い建物を潰したいという感じもします。

私は都市計画をやっていて、いつも点と線と面ということを考えているのですが、雰囲気は面として盛り上がりますが、新しい良い建物とか異人館は点だと思えます。それを線に結んでゆくとという作業と一緒に考えたいですね。

---

### ウシオ工業株

取締役社長 牛尾吉朗  
神戸市灘台区浜辺通5丁目2の1  
神戸商工貿易センタービル18F  
TEL (078) 251-1651(代)

---

### 田崎真珠株

取締役社長 田崎俊作  
神戸市灘台区旗塚通6の3の10  
TEL (078) 231-3321

---

### オールスタイル株

取締役社長 川上勉  
神戸市生田区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

---

### 株ワールド

会長 木口衛  
神戸市灘台区八幡通3丁目1の12  
TEL (078) 251-5311

---

### カネボウベルエイシー株

取締役社長 福岡必三  
神戸市生田区三宮町1丁目43番地  
TEL (078) 392-2101

---

### 株ベニヤ

取締役社長 松谷富士男  
神戸市生田区三宮町1丁目54  
TEL (078) 332-3155

---

### モロゾフ株

取締役社長 葛野友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594

---

### 入船株

取締役社長 小泉進吉  
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19  
(阪神電鉄新在家南) プリコビル3F  
TEL (078) 851-3191

---

### 神戸地下街株

さんちかタウン・サンころべ  
神戸市生田区三宮町1丁目1  
交通センタービル8F  
TEL (078) 391-4024(代)

---



71

キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の  
企画は以上9社の提供によるものです。